

根浜地区復興まちづくり協議会・地権者連絡会 議事要旨

記

- 日時 平成 26 年 5 月 25 日（日）17 時 00 分～18 時 30 分
- 場所 市役所第 4 庁舎 3 階第 7 会議室
- 次第

1. 市長からの挨拶
2. これまでの経緯
3. 土地利用計画（公園沿い道路の標準断面図、暗渠排水管敷設計画図・暗渠排水工を含む）
4. 事業実施スケジュール
5. 意見交換について

昨年 12 月にあった協議会の意見交換で、住宅の地盤の長期地耐力は 3 トン以上と回答された。確かに建築基準法の最低限の基準は 3 トンだが、安全・安心な土地を考えた場合、ハウスメーカーは概ね 5 トンを基準にしており、行政と差がある。このまま 3 トンで整備が進むと、我々は土地購入後、最初から地盤改良をしなければならぬことを避けたく、より強い地盤を作ってほしい。

（県土地開発公社）：盛土地盤に関して、持ってくる砕石は良質な土砂で粒径 10cm 以下とかなり締まったものを持ってきて、皆さんにお渡ししたいと思います。地耐力は基本的に 3 トンですが、実際には 5 トンになっています。今まで宅地ごとに試験を行い、結果データを釜石市役所にお渡しするので、大丈夫かと思えます。

造成の土砂災害に懸念抱いている。大雨による地下水位の上昇、水平方向の変動などに、きちんと対応する必要がある。設計の中でも水の問題を1箇所から2箇所に分散する計画変更をしていただき、良いことだと思う。しかし、この地区は従来からしばらく停滞し、数日後伏流水みたいに出るのが長く続く実態があり、地下に浸透した水をいかに抑えるかが重要なのだがどうか？ 暗渠排水で対応と聞いたが、暗渠排水は先日時間経過で潰れるとの説明もあった。考え方を改めて聞きたい。

→ 水処理は、造成にあたり市も注意しており、水が地下に戻って団地に悪さをしないように、呑口を当初より上流側に移動させ、団地に流れ込む地下水量を減らしたいです。さらに地下水が造成団地に来ても、暗渠排水を設置しており、それで水処理ができます。質問があった経年変化も、既設の水路断面を生かすよう計画しており、宅地に影響がないよう中に砕石を敷いて水が通る暗渠排水を考えています。それ以外の暗渠排水も、径の小さな管を設置し、その周りを採石で保護し、管が多少悪くなくても宅地に影響がない水処理を考えています。

事業実施スケジュールの中で「進捗状況に応じて前後します」と最初から遅れるような記述がある。この「前後」の「後」をとることはできないか。これ以上遅れるのは、皆疲れておりたくさんである。

→ 今日皆さんにお示ししたスケジュールは、5ヶ月前の前回説明会である12月のまち協でお示ししたものより1年以上延びており、いくらかでも短縮するようスケジュールを見直したいです。前後と書いていますが、前倒しし、皆さんに再度説明会を行いたく、平成28年2月が今の最終リミットとして調整をしていきたいです。

(市長) 事業のため、早くなったり遅くなったりがありますが、去年の約束からずれており、お詫びをしながらこれが最終的な期日であることを皆さんと共有させていただきたいです。実際に工事を行うのは公社と施工業者ですが、我々も含めた3者で進捗を監督し、皆さんにご理解をいただきながら、これが最後のスケジュールで前倒しで進めたいと考えていますので、岩手県土地開発公社さん、よろしくお願ひします。

(県土地開発公社) 我々も一刻も早く完成するよう、努力したいと思っています。また工事ですが、毎月の進捗状況を瓦版のチラシ配布のように、「このように工事が進んでいる」と報告したいと思います。工事途中であっても現場が見たいと思ひましたら、皆さんに進捗状況報告などをご案内したいと思ひます。

これから工事に入る訳だが、20m 盛るのに多くの土砂を入れても、雨が降ると砂状の土では流れてしまうので、現地にあった土で盛土してほしい。トンネルを掘っているが、雨で崩れている。そんな土で埋められても困るので考慮してほしい。

→ 盛土については、量が結構ありますので、いろいろなところから搬入する計画で、一番量が多いものは、市の工事がある箱崎半島線の根浜箱崎界限から半分以上入ってきます。三陸沿岸道路など三陸国道事務所からも残土が出るので、補足的に入れ、地耐力を考え、良いものを持ってきたいです。

当初根浜の計画は早くでき、他地区より早くまちができるかと皆期待していたが、遅れることに納得ができない。体の弱い人も多く、早めてほしいので、5月末の入札から9月にならないと工事が進まないことは納得ができない。説明してほしい。

→ 5月末に入札、6月初旬に契約です。施工業者も資材調達、測量調査等を始めます。同時並行の用地関係も順調に進んでおり、このまま進めば、5月末、6月初旬に用地をご協力いただけるので、順次関係する木の伐採などを進め、本格的工事に入るのが7月、8月という段取りを踏んでいます。施工業者が決まり次第、市と話をしながら一刻も早い完成に向けて進めるようにしたいと思います。

土地に関しては協力をしている。県土地開発公社が設計を出し、入札業者が決まり、設計に時間がかかるのではないかと？

→ 公社の業者が決まれば、直ちに造成前工事の着工が始まります。重機が入ってきて工事が進むので、他の地区で行っているCM方式とは違うことをご了解いただければと思います。

根浜・室浜・桑の浜地区で一番遅くなるのに納得ができない。前倒ししても良いので、同じ日に終わる努力をしてほしい。

(市長) 岩手県土地開発公社が言ったように、桑ノ浜、室浜、根浜の3地区と別の地区では整備の進め方が違います。3地区では、委託をした時点で用地交渉や設計を実施済みであり、どちらかと言えばこちらのほうが早く、見た目と違います。県公社の3地区の中でなぜ根浜が遅いのかですが、詳細設計をしたところ、盛土量が断トツで多く、日本の近代的技術で施工するため問題はないものの、22.5mまで盛土を重ねるのに時間がかかることをご理解いただきたく思います。

→ 盛土量で根浜は27万 m^3 であり、室浜3.7万 m^3 、桑ノ浜8.1万 m^3 より盛土量が大きく、時間がかかります。いくらかでも早く進むよう、手続を進めています。先程意見が出ましたが、区域内で切土をすると、粒径を揃えたり等、時間がかかるので、逆に工期を短くするため、外から土砂を持ってきて、早く造成団地を造りたいと思います。

自力再建住宅は平成 28 年 3 月からの予定だが、土地の割り当てはそれからになるのか？ それとも、その 1~2 年前に設計図が出ているため、「あなたが住む場所はここだ」と決まるのはいつ頃と考えているのか？

→ 宅地造成の見込みが先にできますので、できた時点で皆さんの意見を聞きながら決める方法を模索していきたいです。できれば各々の自力再建の土地は、地域の方々に決めていただきたく、そのための情報提供をしながら、その仕組みづくりを進めていきたいです。

話を戻すようで恐縮だが、前回説明会で工期を副市長に再確認したにもかかわらず、5ヶ月後になぜ1年数ヶ月も延びるのか。原因を明らかにしなければ、また同じことが起こるのではとの不安がある。事前情報が無いいきなりであり、「決定しました。変更します。」というのは乱暴ではないか。しかし、今日は新たなスケジュールが出されたので、不満はあるが一日でも早く地元に戻りたく、少しでも前倒してほしいので、理解、協力はしていきたい。

また、根浜は他地域と違い、唯一の観光地であり、2年後の国体ではトライアスロン会場になっている。国体の諸準備をされるのだろうが、地元に戻れなかったら、国体開催地として地域の人が何をどう協力すれば良いのか。地域として行政に協力しなければと思っており、我々が住む住宅ができて、生活基盤を作り協力をしたいので、一日も早い完成をお願いしたい。

→ 根浜の方々には、防潮堤問題も独自に自分たちで結論を出し、「観光地ということで防潮堤を下げ、住宅を上げる」などの計画を早くに決めていただき、根浜のまちづくりのあり方はどうなるのかについても、議論いただいていることを認識しています。それに応え、早期完成を目指さなければならないものの、昨年2月に住宅地の高さが15mから20mになったとお話した時に、土量が10万m³増えており、工期が延びる可能性があることも説明すべきでした。今後様々な計画もご協力いただかないと進捗しないのはその通りであり、根浜跡地の利用問題も含め、引き続き検討し、工期をいくらかでも縮めていきたいと思えます。

(副市長) 県公社が説明したように、詳細設計は済んでおり、明日から業者が決まれば工事できる段階にあり、他地区とは全く違います。他地区は業者が決まっているものの、発注工事が確定しておらず、これから市が工事の大きさを決めて出さないと動かない状況にあります。それに比べると、ここは県公社が詳細設計まで進めており、実は早いと思えます。業者が決まれば起工式も行われ、伐採も始まるので、目に見えて工事が進むので期待をしてください。

根浜地区は他地区と異なり、観光客に多く来てもらいたい、交流を活発に進める場所です。2年後の9月に行われる岩手国体で、初めて国体でトライアスロンを行う場所になります。震災以降一部休止していましたが、根浜はトライアスロンの伝統もあり、最初はオープンシー、去年からランを入れ、今年はバイクを入れて復活します。具体的な進め方は国体の事務局と相談しています。工事ははじ

まり、その時点の進捗状況でコースは微妙に変わるかも知れませんが、皆さんがそこに戻っているのが良いと考えています。なるべく道路事業や基盤整備を急ぎ、公営住宅を造るなどの加速化を図り、復興の姿を来方に見せられるようにしたい。なお、一番の懸念は、片岸からの防潮堤と鶴住居の水門工事で、それにより現道が高くなるため、その工事だけは急がないといけません。箱崎半島線が早くできればよいですが、2年後にはまだ完成していない可能性があり、未完成でも旧道を通って根浜まで行けるように、それがトライアスロンのコースになるのでしっかり工事の進捗を図りたいです。引き続き情報交換を密にし、しっかり皆さんに工事を監督していただき、頑張りますので、よろしくお願いします。

確認だが、本日工事スケジュール等の説明を受けたが、今後タイムリーに情報を出してもらわないと我々も動きづらい。今日の説明はよいが、これからは県土地開発公社が説明をするのか？ 我々は第2日曜日にお茶会を開いており、地域の方を集めることができるので、その場で進捗を報告してもらえるとありがたいが、可能か？

(市長) 可能です。これからの地域の皆さんとの合意形成、工事の進捗状況の意見交換は、まちづくり協議会もしくは地権者連絡会がその場と考え、重要な場と捉えています。先程言ったように、市・県土地開発公社として、一定の考え方の合意のもとで進めたく、根浜の担当者を通して行っていただきたい。手違いあつては困るので、町内会の皆さんには今後の意見交換の進め方などをお話しさせていただきたい。それを念頭に、県土地開発公社との意見交換は市担当者を含めて密にやられても良いと考えます。

根浜の人が戻れない状態では、国体などのイベントなどに意見ができないので、なるべく早く戻れるよう準備を進めてほしい。根浜に来る道路は、今ナビにも写らない。ナビ通りだと迷う。宝来館にいらっしゃるお客様に根浜はどうやって行くのかと聞かれるので、工事時で箱崎半島に行く道路標示を出してほしい。個人的に自分たちで出してもいいか？

→ 今道路や橋がいろいろなところで通行できず、わかりにくいところがあります。案内看板は、建設課でも設置しておらず、通行止めなどで迂回路などが必要かと思うので、道路管理者に話を一度行い、後で回答させてほしいです。

(市長) 今日はお集まりいただき、ありがとうございます。スケジュールが延びることは申し訳なく、言いにくいことも正直にお話しさせていただきました。皆さんと一緒に工事の進捗を見守りながら、早く進むよう全力を尽くしていきたいです。これからは実際の工事が始まるので、岩手県土地開発公社、工事業者と具体的に工事の進捗の話し合いになります。従って、復興公営住宅に入る方、自分で家を建てる方々ができるだけ減らないよう、そのまま根浜での再建を予定していただきたい。場所が決まったので、あとは誰がその土地を選ぶかですが、選び方と時期を決めていけば、皆さんもスケジュールの目処が建つため、その取組ができるよう取り急ぎ進めさせていただきます。根浜は観光地で、2年後に国体もあ

るので、皆さんの住宅再建が最優先ではあるものの、そのスケジュールを一つの目安とし、いろいろなことが間に合うよう取り組ませていただきたいです。いろいろ課題が残ったままですが、我々も全力を尽くしますので、皆さんもよろしくご支援とご協力をお願いします。今日はありがとうございました。

以上